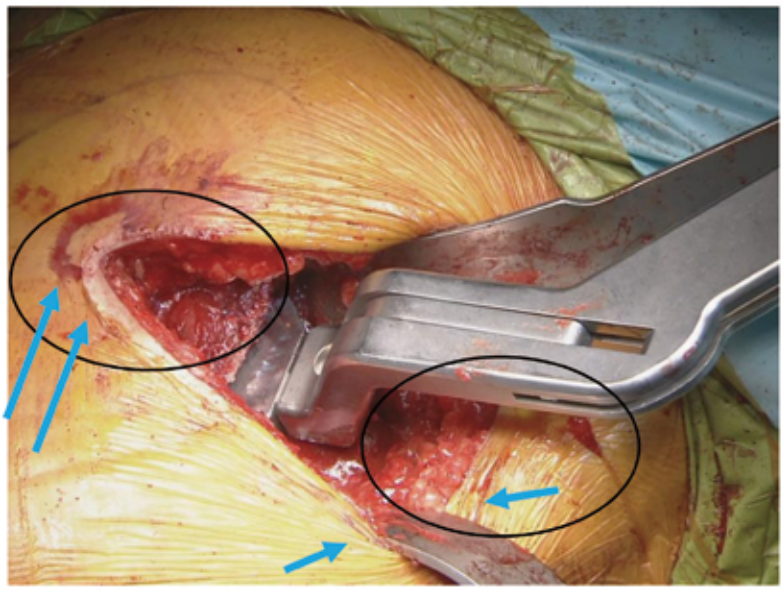
シーズ名	手術創部辺縁保護シートの開発
氏名･所属･役職	大田　陽一・医学研究科　整形外科学・講師

＜概要＞

近年、人工股関節置換術において最小侵襲手術技術：MIS（minimally invasive surgery）が取り入れられてきている。人工股関節置換術では寛骨臼側（骨盤側）と大腿骨側の双方にインプラントの設置を行うが、特に大腿骨側のインプラントの設置の際に最小侵襲手術で皮切（手術創）が小さい場合は手術創部の辺縁にダメージが起こることがしばしばみられる。手術創部にダメージが起こると、創部の修復遅延、更には創部感染につながることが考えられるためインプラントによる創部ダメージを避けることは重要課題である。



＜アピールポイント＞

人工股関節置換術の手術件数は年々増加傾向にあり、年間５万例以上に上るといわれている。その中でも近年では、患者さんの負担や侵襲をできるだけ軽減するという目的で最小侵襲手術技術：MIS（minimally invasive surgery）が導入され、MIS による手術件数も増加傾向にある。

これまで金属製器具を用いた創部保護器械は存在していたが、インプラント挿入器械と干渉することによりインプラント設置不良につながることもあるため、その様な干渉を緩和するために、軟性の保護シート（ゴム製、シリコン製など）の開発ができないかと考え今回の着想に至った。

＜利用・用途・応用分野＞

整形外科、関節外科手術、人工関節置換術

＜関連する知的財産権・引用文献・学会発表など＞

なし

＜関連するＵＲＬ＞

なし

＜他分野に求めるニーズ＞

なし

キーワード	人工股関節置換術、最小侵襲手術、手術創部保護